



城西国際大学

地域連携推進センター通信

Center for Regional Collaboration

発行 城西国際大学 地域連携推進センター
千葉県東金市求名1番地

発行日 2025年3月27日

Vol. 5



Contents

- 1 地域連携推進センター紹介
山武郡市地域連携意見交換会
- 2 東金市と西岬観光との帰宅困難者支援
山武市外国人児童生徒の日本語教育支援
芝山町との連携事業
- 3 域学共創プロジェクト
- 6 専門職連携教育 ライフステージIPE
- 10 市民未来大学
東京紀尾井町キャンパス公開講座
- 11 公開講座
- 12 2024年度 主な地域連携活動



地域連携推進センターとは

地域とともに未来を創造する城西国際大学の地域連携の窓口です。本学の地域に関わる教育研究および社会貢献活動を統括・調整することにより、①産業の振興、観光の振興、②地域の活性化、まちづくり、③健康の増進及び福祉の充実、④地域人材の育成、⑤地域と連携した学術研究、⑥現地学修や生涯教育の6つの分野に関わる活動を支援しています。

2024年度は、域学共創プロジェクト、ライフステージIPE・専門職連携教育、公開講座、市民未来大学を実施するなど、各種地域連携活動を行いました。

山武郡市地域連携意見交換会

地域連携推進センターでは、千葉東金キャンパス周辺の地域の課題解決に向けて近隣自治体との連携を深めるため、2021年度より地域連携意見交換会を定期的に開催しています。

大学、東金市、山武市、大網白里市、九十九里町、芝山町、横芝光町が連携を深めることで、共同で地域が抱える課題を発見し、その共有と解決に向けたアクションプランを検討する場としています。千葉東金キャンパスにて開催し、各自治体からは地域連携の実務担当者を中心に出席しています。

2024年度第1回会議(9月10日)では、本学教務部長の額賀路嘉教授が、全学部・学科・研究科の教育課程について説明を行いました。特に、大学の理念や教育研究上の目

的を達成するために、3つのポリシーに基づいて教育活動が行われる点について解説があり、学生の成長が教育プログラムの目的であること、そしてそのために地域社会での活動を促進することが重要であると述べました。また、学習成果の可視化の必要性にも触れ、地域社会との連携を通じて学生が成長できる教育プログラムの構築を目指していきたいと伝え、参加自治体からの意見を聴取し、教育の活性化について議論を行いました。さらに、山武市で国際人文学部が行っている外国人児童生徒への日本語教育支援について、林千賀教授から事例報告がありました。

意見交換会は今後も定期的に開催し、官と学の結びつきを活かした地域活性・地方創生活動を展開していきます。



東金市と西岬観光株式会社と災害発生時における 帰宅困難者支援に関する協定を締結

本学、千葉県東金市、西岬観光株式会社(千葉県千葉市)の3者は、9月17日、災害発生時における帰宅困難者支援に関する協定を締結しました。災害発生時には、本学が西岬観光株式会社に委託して運行するシャトルバスを帰宅困難者支援のために活用し、東金市の災害対応に協力します。

締結式は同市でおこなわれ、鹿間陸郎市長、西岬観光株式会社高木恒明代表取締役、倉林眞砂斗学長が協定書に署名し、それぞれ挨拶しました。鹿間市長は「本協定で、東金市の帰宅困難者支援が進み、安心・安全なまちづくりを目指したい」と述べ、倉林学長は「市民支援に社会貢献できる意義を強調」しました。高木代表取締役は「令和元年房総半島台風の教訓を踏まえ迅速な対応を目指す」と述べました。

今後、災害を想定したシミュレーションを通じ、3者間で意識向上を図る予定です。

災害発生時における帰宅困難者支援に関する
西岬観光株式会社 城西国際大学 東金市



活動紹介



❖山武市外国人児童生徒の日本語教育支援

外国人児童生徒に『やさしい日本語』を

国際人文学部 国際交流学科 林千賀教授

近年、千葉県山武市はスリランカ国籍の住民の増加に伴い、児童生徒も小中学校で受け入れが始まり、2023年に「山武市及び山武市教育委員会と城西国際大学との外国人児童生徒の日本語教育支援に係る連携協定」が締結されました。そこで本学では千葉県山武市のスリランカ児童生徒のための日本語支援の一環として国際人文学部国際交流学科のゼミ生が漢字や言葉を、ゲームを通して楽しく学んでもらえるよう交流会を実施しています。交流会では「やさしい日本語」や英語でコミュニケーションをとりながら日本語支援を行っています。

さらに、小学校や中学校の日本語教育支援員や指導教諭たちへの支援も継続して行われています。本学の日本語担当教員が日本語担当者会議で講師を務めるなど幅広い活動が行われています。特に今年は、この支援の様子を国内外の日本語教育関連の学会で、「山武モデル」として発表することができました。



❖芝山町との連携事業

「スカイパークしばやま」のロゴマークを制作

メディア学部メディア情報学科 中嶋正夫教授

本学が包括連携協定を締結している、千葉県山武郡芝山町の観光施設「スカイパークしばやま」のロゴマークをメディア学部の学生が制作し、その貢献が評価されスカイパークしばやま連絡協議会から表彰されました。このロゴは、メディア情報学科ニューメディアコース2年生の授業の一環として学生3名程度のチームで制作しました。約20作品の中から選考を経て正式に採用され、完成発表会では制作意図の紹介や芝山町関係者との交流も行われました。

本学は地域と連携し、学生の実践的な学びを支援するとともに、地域社会への貢献を推進していきます。





域学共創プロジェクトとは

「域学共創プロジェクト」は、本学の地域基盤型教育の一つであり、大学と地域との協働により地域課題解決に取り組む学生主体の授業です。プロジェクトを通じて街を活性化するとともに、企画力やマネジメント力、創造性を養うことを目的として活動しています。2024年度は8プロジェクトを開講、1、2年生を中心に77名が履修し実際に活動を行ないました。

各プロジェクトの活動について、2025年2月には、東金ショッピングセンターサンピアにて報告会を実施、多くの方に足を運んでいただきました。報告会では集大成として今までの活動や結果、今後の展望などを報告し、2024年度の活動は終了となりました。



【最終発表会アンケート結果】



最終発表会ではアンケートを実施し、46名の方からご回答いただきました。

項目が多数だったにもかかわらず、ご協力をいただきまして、ありがとうございました。

●性別

	件数
男 性	32
女 性	8
無回答	6
計	46

●年齢

項目	件数
20代以下	11
30代	5
40代	7
50代	3
60代	7
70代	8
無回答	5
計	46

●参加満足度

項目	件数
満足	26
やや満足	9
どちらでもない	1
無回答	10
計	46

●評価(全体、最高4)

項目	ポイント
主体性	3.16
協働性	3.14
解決力	2.93
活性化	3.08
企画力	3.16
創造性	3.00
発表力	3.03
トータル	3.07

●自由記載(抜粋)

- 昼食に訪れた際、人だかりができていたので、つい立ち寄りました。
- 学生が、自身で仮説を立て、課題を持ち積極的に参加されていたのが素敵でした。
- 留学生も参加し共修を通じ地域の活性化に貢献している様子が見られ良かった。
- 各取り組み、学生が真摯に実践されている様子が伝わりました。
- 地域の魅力を発掘し、進めていただきたい。





障がい者の「生きる」に寄り添う コミュニティケア

担当教員：伊賀聡子(看護学部看護学科)、太田幸雄(看護学部看護学科)、森山拓也(福祉総合学部福祉総合学科)

本プロジェクトは、地域で生活されている障がいのある方々の「生きる」に寄り添い、コミュニティを通じたケアの実践、地域共生社会の実現を目的としています。本年度は、「地域との繋がりに乏しい」現実を抱えた障がい者の課題解消に向け、『第2回 風のアール・ブリュット×ココロ・ポリリズムJII』を実施しました。本活動を通して、「障がいは個々人の個性である」ことに気づくとともにインクルーシブの重要性を学ぶことができた。

さらに、「言葉だけではない様々な自己表現がある」ことを知り、多様性を認め合うことが、障がいのある方と『つながる』ために重要であることを学んだ。また、障がいのある方と地域の方々が『つながる』機会を増やすことで、障がい者の自己実現につながることを学び、活動を継続することの必要性を実感することができた。地域共生社会に向けた一歩となったのではないだろうか。



道の駅と大学プロジェクト

担当教員：金子祐介(観光学部観光学科)

本プロジェクトは、東金市役所(以降、東金市)と連携し、東金市が運営する道の駅・みのりの郷東金を基点とし、下記の三点を目標に、山武郡市の観光振興に寄与するプログラムづくりを実施しています。

- (1) 地域のネットワークを構築すること
- (2) 地域経済に寄与する観光について検討すること
- (3) 通年観光に寄与する地域の仕事を生み出すこと

2020年、2021年度は、まち歩きイベントを実施、2022年度以降は6ヵ年計画でサイクルツーリズムを推進していきます。

本プロジェクトを通して、学生たちは、サイクルツーリズムでの観光に寄与するインフラづくりを東金市商工観光課の職員をはじめ、山武郡市の行政職員、及び、観光協会の方々と検討してきた。とくに、本年度は、JR東日本が推進するB.B.BASE誘客イベントに関わらせていただくことで、コースづくりや見せるべき地域資源がターゲット設定ごとに異なることを学ぶ機会となった。また、観光資源は「モノ」だけでなく「ヒト」や「コト」の中にもあることを学んだ。そして、学生たちは自分たちの取り組んだプロジェクトを介して、その価値を観光客に魅力ある情報として共有できたと考える。



山武市在住高齢者のデジタルデバインド 解消プロジェクト

担当教員：四十竹美千代(看護学部看護学科)、山村重雄(薬学部医療薬学科)、竹内弥彦(福祉総合学部理学療法学科)、安田孝(福祉総合学部福祉総合学科)、小川明宏(福祉総合学部理学療法学科)、中野元(看護学部看護学科)、山根主信(福祉総合学部理学療法学科)

社会のデジタル化に伴い、多くの高齢者が取り残されており、高齢者のデジタルデバインド(情報格差)解消は社会において大きな問題となっている。そこで、本プロジェクトでは、インターネットに慣れ親しんだ学生がデジタルデバインドの現状を把握し、さらにデジタルスキルを教えるための知識及び技術を獲得し、高齢者にデジタルスキルを享受することを目的とした。学生たちは、高齢者が思った以上にスマートフォンの

基本操作に苦労している現状を理解し、教える際には丁寧さと忍耐強さが必要であることを学んだ。また、高齢者が、孫世代の学生たちと関わることで、彼らがより元気になる、学びに意欲的になれることを実感できる機会となった。とくに、両者が、グループLINEでの継続的なやり取りを通じて、デジタルスキルの向上だけでなく、高齢者との信頼関係を構築できたことは価値のあることだと考える。



オリーブ産地化応援プロジェクト

担当教員：光本篤史(薬学部医療薬学科)

東金市の市民アンケートから、社会活動への参加機会を増やし、自然と生活を調和させ、健康で子育てしやすい環境をつくるのが課題であることがわかった。その中で東金市は、新たな地域ブランドの創出を目指し、2014年にオリーブの産地化に向けた取組みを始めていた。そこで、本プロジェクトでは、オリーブ産地化を支援し、「まちに元気、ひとに健康」を届けることが、地域課題の解決につながると考え、オリーブ収穫体験、新商品の開発研究、オリーブ文化の普及などを目的とした、地域ブランディングに取り組んでいる。

オリーブ産地化応援プロジェクトに携わることで、オリーブの健康性を知り、栽培・加工・販売とオリーブ6次産業化の流れを把握することができた。ほかにも収穫体験の実施、地域のスポーツ大会へのオリーブクラウンの提供、オリーブオイルを使ったリップやキャンドルの制作など、皆さんの「楽しい」をプロデュースする取り組みに参加した。

こうしたオリーブ文化を普及させることで、地域住民の社会参加を促し、自然と生活を調和させ、ヘルスケアに関わるまちづくりを進展させることができたのではないかと考える。



川代棚田共育プロジェクト

担当教員：姜東星(福祉総合学部福祉総合学科)、綿貫文野(福祉総合学部福祉総合学科)

本プロジェクトは、地域共生の価値を学び、地域共生社会の実現に向けた課題解決に取り組むことを目的としています。

具体的には、学校法人城西大学の創立者である水田三喜男先生の故郷、千葉県鴨川市を訪問し、棚田の保存活動を通じて地域振興に貢献しています。日本の田植え、稲刈り、収穫祭の文化は地域ぐるみの助け合いの象徴であり、農作業には多くの人々の心と力を合わせることが求められます。このプロジェクトでは、共に学び合い、成長し合う「共育」を推進しています。また、建学の精神である「学問による人間形成」を体感し、異なる背景を持つ人々、留学生、地域住民と協力しながら、SDGs(持

続可能な開発目標)に沿った社会貢献を実践しています。

実際に稲を栽培し、田植えから収穫までの作業を体験することで、棚田の伝統を守ることの大切さや、お米を育てることの大変さに気づきました。農作業では、地元の方々から手作業での田植えや収穫の方法を教わり、学生たちも質問をして主体的に学びました。秋の収穫祭では、田植えや収穫で得た学びを地域の方々にポスター発表し、収穫したお米を振る舞うなど心温まる体験を共有することができました。また、デイサービスの利用者の方との触れ合いを通じて、傾聴や共感の大切さを学び、福祉を学ぶ学生の就職志望にもつながりました。



地域に住まう人々の健康増進と 障害予防に向けた実践活動

担当教員：安齋紗保理(福祉総合学部理学療法学科)、大杉紘徳(福祉総合学部理学療法学科)、深谷泰山(福祉総合学部理学療法学科)

本プロジェクトでは「健康増進・障害予防」に焦点を当てています。地域の人々を対象に体力測定会を行うことで、地域にどのような健康課題があるのかを理解し、学ぶことを目的とします。また、地域の人々と共に健康課題の解決に向けたグループワークなどの実践活動を行うことで、健康課題を解決するためにどのような取り組みが可能かを考えます。これらの活動を通じて、地域における健康増進に向けた自助・互助活動の促進を目指しています。

本プロジェクトを通じて、健康に関する身体機能の測定技術

を学ぶとともに、健康増進・障害予防の重要性に気づくことができるようになりました。また、その過程で、臨機応変に行動ができる対応力や応用力を身につけ、さらに、地域の人々とのコミュニケーションやディスカッションを通じて、異なる世代の方々や話す技術や傾聴力を養うことができました。一方、地域の人々に対しては、体力測定会を通じ、自身の健康を知る機会を提供することで、今後の健康増進に向けた活動に取り組むきっかけを作ることができたと考えます。



ケア機能のあるまちづくり —学童保育における命を守る「防災かるた」普及活動—

担当教員：柚山香世子(看護学部看護学科)、丸山あかね(看護学部看護学科)

本プロジェクトは、未来の担い手である子どもへの防災教育・普及活動を介して、学生が地域住民との交流による新たなコミュニティづくりについて検討します。また、地域の方々の命を守ろうとする想いが込められた「防災かるた」を作成します。

本年度は、「防災かるた」に聴覚障がいの方へ配慮視点を加え、地域に暮らす子どもに合わせた「防災かるた」の作成や地域住民との相互関係について考えることを目的として実践しました。

本年度は、聴覚障がいをもつ子どもへの配慮として指文字

を加えた「防災かるた」や災害時の具体的な行動および備えに関するすごろくゲーム、防災釣りゲーム、災害カードゲームを考案しました。教材を作成し、学童保育での子どもへの働きかけを通して、相手の年代・特徴に合わせた遊びや関わり方について考え実践する力を養うことができました。

遊びを介した子どもの様子を観察する、疑問に答えるやり取りなどが、子どもだけでなく、学生自身の防災知識や地域の一員であるという意欲を高めることに繋がっていました。



東金市の祭りと伝統芸能

担当教員：名本光男(国際人文学部国際文化学科)

本プロジェクトは、地域に沈潜しているさまざまな価値の発掘、磨き上げや課題の解決策を探る中で、参加学生ひとりひとりが主体となり、異なる背景を持つ多様な人材、例えば、他学部で異なる専門を学んでいるメンバー、企業や住民といった地域の方々や協働して取り組むことによって、主体性、企画力、想像力、協働的能力を養うことを目的とする。

その目的達成のために、東金市で隔年で行われている日吉神社連合祭典の祭りに参加し、民俗学的なアプローチを試みる。

伝統芸能について、その歴史や成り立ち、意味合いなどを実際に関わっている人々から聞き、それらが地域にどのように根付いているのかを理解することができました。また、地域内の人と人の関わりが、「地域」を1つのまとまりのある集団たらしめている上で、とても重要な役割を果たしていることも理解できました。

そして、実際に日吉神社連合祭典に深く関わることで、全国的に廃れつつある地域の「祭祀」の重要性を再認識することが若い世代の心の中にも醸造されたかと思えます。



城西国際大学 専門職連携教育

ライフステージIPE



JUは地域の人々のニーズの多様化が進む中、誕生から看取りまでのライフステージ全般を支援できる専門職を育成するため、独自の専門職連携教育「ライフステージ IPE」を行っています。

様々な価値観に配慮して健康課題を解決していくためには、専門職同士がお互いの顔を見て意見交換し、共通のゴールに向かって協働することが求められます。本プログラムでは学生時代に学科を超えて共に学び、互いの専門性を持ち寄り共通課題を解決する経験を通して、多職種のつなぎ役としての素養を持つ医療・福祉系専門職を養成します。プログラム運営に際し、地域の方々から頂いているご支援・ご指導に感謝いたします。

IPE99

ライフステージIPE

A

テーマ『発達課題・健康課題を通して対象を理解する』

【目的】

人の一生を発達段階別に身体的・心理的・社会的側面から理解し、ライフサイクルからみた生涯にわたる発達の課題を学ぶ。そして、健康課題をもつ人の講演を拝聴し、専門職者へのニーズを知る。

【到達目標】

- ライフサイクルからみた生涯における発達の課題、発達を視野に入れた支援が理解できる。
- 健康課題を持つ人の生活や専門職へのニーズを理解できる。
- チームケアを担う自身の目指す専門職の専門性への理解、他職種の専門性の理解を深める。

【受講生】

福祉総合学科(2・3・4年生、計17名)

理学療法学科(患者講演会13名)

看護学科(2年生110名)

医療薬学科(2年生49名)



【担当教員】

(福祉総合学科) 馬場康德、森山拓也、佐野智子、茆海燕

(理学療法学科) 安齋紗保理

(看護学科) 宮澤純子、柚山香世子、島村龍治

(医療薬学科) 中村洋、溝口優

【プログラムを終えて】

看護学部、福祉総合学科の先生方の講義より、受講生は乳児期、幼児期、思春期、成人期・成熟期、老年期といった人生の各発達段階において、身体的・精神的・社会的側面から発達の特徴および課題を理解したうえで、自らの専攻分野から発達を視野に入れた支援を考えました。

患者講演会では「利用者の希望をかなえるために、多職種間で情報を共有し協働することが不可欠だと知った」などの感想が寄せられ、対象者の気持ちを理解し、支援するための行動を自覚する貴重な機会となりました。

最終日のチームビルディング演習では、学科の壁を越えてより高いマシュマロタワーを協力する姿が見られ、今後のIPEの盛り上がりが期待されました。



【スケジュール】

日 時	講 義 内 容	担 当
4/ 5(金)	乳児期から幼児期前期の身体的形態的発達と精神的・社会的発達	柚山香世子
4/12(金)	発達・障害発達とは何か / 親になることとは / 胎児期・新生児期の発達	宮澤純子
4/19(金)	老年期の理解、身体的形態的発達と精神的・社会的発達	佐野智子
4/26(金)	幼児期後期から思春期の身体的形態的発達と精神的・社会的発達	柚山香世子
5/10(金)	患者講演会 西田江里 氏 (社会福祉法人パーソナル・アシスタンスとも)	
5/17(金)	成人期成熟期の理解、身体的形態的発達と精神的・社会的発達	森山拓也
5/24(金)	期末試験、チームビルディング演習 (マシュマロチャレンジ)	馬場康德・茆海燕

【目的】

専門職を理解する

【到達目標】

- チームケアにかかわる様々な専門職による講演を通して、各専門職の専門性や、他職種から求められているものについて知る。
- 他職種と自分が目指す職種との違いを知り、どのようにチームとして機能できるかを考え、理解する。

【受講生】

福祉総合学科(11名)、理学療法学科(47名)、看護学科(110名)、医療薬学科(52名)

【スケジュール】

下の表のとおり各専門職による講演を拝聴した。学生は学びや感想について3学科混合のグループでディスカッションすると共にリアクションペーパーを作成し、専門性の異なる他職種との共通点と相違点を検討した。

【担当教員】

(福祉総合学科) 茆海燕、馬場康德
(理学療法学科) 安齋紗保理、大杉紘徳
(看護学科) 島村龍治
(医療薬学科) 中村洋、北村昭夫

【受講生の学び】

- 専門性が異なる医療職同士が円滑に連携するためには、互いの役割を尊重し、理解し合い、共通の目標を持って協働することが必要であると考えました。
- チーム医療の一員として他職種との連携を意識しながら、ケアを提供する必要性を学びました。今後も多職種の視点を意識し学び続けたいです。

【プログラムを終えて】

講演会にご協力をいただきました講師の先生方に心より御礼申し上げます。

職種の異なる先生方から直接お話を伺うことができ、役割の理解を深めるだけでなく、チームとして患者さんを支える姿勢について考える貴重な機会となりました。



【スケジュール】

日 時	専 門 職	講 師
6/14(金)	介護福祉士	片岡信明氏 (ゆりの木苑)
6/21(金)	薬剤師	笹原将生氏 (ササハラ薬局)
6/28(金)	社会福祉士・精神保健福祉士	赤堀久里子氏 (NPO法人リンク)
7/ 5(金)	理学療法士	杉山楓氏 (こぱんはうすさくら新松戸教室) 鈴木雄大氏 (千葉西総合病院)
7/12(金)	看護師	小柴千鶴氏 (さんむ医療センター)
7/19(金)	介護支援専門員	今西航地氏 (株式会社コイノニア)

【目的】

医療薬学科、看護学科、福祉総合学科、理学療法学科の4学科間で、共通テーマのもと、2種類のワークショップ(以下、WS)を行うことで、互いの専門職を理解し、さらに専門職間の連携を体験する。

創作事例WSでは、未完成の事例をもとに、事例の背景やストーリーを自由に創作し、『人の人生とは何か』、『個性とは何か』について考える。模擬事例検討WSでは、提示された事例をもとに、本人の望む生活に向けた医療福祉チームによる支援の道筋を探るプロセスを疑似体験する。

【到達目標】

創作事例WS

- 未完成のケースをもとにその背景やストーリーを自由に創作することによって、『人の人生とは何か』について考え共有できる。
- 各個人が創作したそれぞれのストーリーの違いを知り、『個性とは何か』について考察できる。

模擬事例検討WS

- 模擬事例の支援計画を複数学科の学生が協働して作成し、本人の望む生活に向けた支援の道筋を探るプロセスを疑似体験できる。
- 各学科において考えられた支援計画を共有・議論することで、他職種の特徴や視点の持ち方などの相違点を知り、自職種の特徴や強みを発見できる。

【受講生】

福祉総合学科(4年生9名)、理学療法学科(3年生47名)、看護学科(3年生1名)

【スケジュール】

創作事例WS

- 6月7日(金)～14日(金):
創作事例(学科内のグループワーク)

模擬事例検討WS

- 6月14日(金)～28日(金):
支援計画の作成(学科内のグループワーク)
- 6月28日(金)～7月5日(金):
学科合同での支援計画の作成
(学科混合のグループワーク)
- 7月12日(金):
学科混合で話し合った支援計画の発表

【担当教員】

(福祉総合学科) 森山拓也
(理学療法学科) 安齋紗保理
(看護学部) 島村龍治、石田ゆかり
(薬学部) 溝口優、中村洋

【プログラムを終えて】

創作事例WSでは12グループに分かれて事例を創作しました。未完成の事例をもとに、グループごとに事例の生活歴や問題点などを創作しましたが、それぞれのグループで全くの別人のストーリーができあがっていました。今後、自身が支援する対象者がさまざまな背景を持つ個人であることを感じるいい機会になったと思います。

模擬事例検討WSでは、参加学生の人数において学科に偏りがあり、一つの症例について複数の学科が合同で支援計画を話し合うということが十分にできませんでした。そのような中でも、目指す職種の違いによって、何を問題と捉えるか、どのような手段で支援を行うのか、支援の対象が誰なのかといった視点に違いを感じたようです。学生からは、福祉総合学科から意見として上がった対象者個人だけでなく、家族も含めて支援を行うという考えはこれまでにない衝撃を受けたという意見が聞かれました。各職種の考えを合わせて支援を考えるとという多職種連携の重要性を知る良い機会となりました。

【目的】

地域の医療福祉の場で利用者の立場からみた連携・協働した支援を学ぶ

【到達目標】

- 利用者のニーズに沿うケアサービスが提供できるようになるために、連携・協働の必要性を理解する
- 連携・協働したチームケアを理解するために、自身の専門領域の知識・技術・態度を活用する
- 連携・協働したチームケアを理解するために、自身の専門領域と他の専門領域との共通性を理解する
- 利用者に沿った支援計画を立てるために、地域特性と利用者のニーズを理解する

【受講生】

福祉総合学科(3・4年生、計5名)、
理学療法学科(3年生5名)、
看護学科(4年生5名)、医療薬学科(5年生10名)

【スケジュール】

- 事前学習 8月22日(木):
チームビルディング、事前調査
- 実地研修 8月23日(金)～28日(水):
フィールドワーク(在宅訪問、施設訪問など)
- 事後学習 8月29日(木):
振り返り、実地研修での学びの発表・共有

【実地研修先】

花城医院(山武市)、大網歯科医院(大網白里市)、片貝デンタルクリニック(九十九里町)、おゆみ野総合歯科クリニック(千葉市緑区)、片貝薬局(九十九里町)、きだ在宅クリニック(大網白里市)、みんなのライフサポートクリニック大網(大網白里市)、ヤックスケアタウン千城台(千葉市若葉区)

【担当教員】

(福祉総合学科) 伊藤将子、馬場康徳
(理学療法学科) 大杉紘徳、安齋紗保理
(看護学科) 島村龍治、石田ゆかり
(医療薬学科) 光本篤史、佐々木英久、中村洋、溝口優

【受講生の声】

- 訪問診療に同行させていただける機会はありませんでしたが、とても貴重な経験となりました。
- 初めは歯科クリニックという場所で何を行うのか全く想像がつかなかった。実際に実習に行ってみて、歯科クリニックで何が行われているのかを見ることができた。意外と歯学と薬学で関わりがあることを初めて知ることができた。
- 色々な場所で研修をさせていただき、とても楽しかったです。
- 地域医療について学ぶ機会があまりなかったもので、このような機会をいただき、地域医療の連携や活動について学ぶことができたのでとても勉強になった。
- 普段の授業では関わることの無い他学部とチームを形成し、コミュニケーションを取ることで、色々な情報に触れることができ、とても良かったと思います。
- 他職種が集まる授業はあまりないため、福祉総合学部、看護学部、薬学部が一つのチームになって実習にいくことで、自分にはない視点を持つことができた。今回学んだ、他職種連携をスムーズに行う方法を今後、臨床に出た際に活かしていきたいと思いました。
- 自分たちがどんなことを得意としていて、どんなときに頼って欲しいのかもっとアピールしていく必要があると感じた。

【プログラムを終えて】

学生が各学科での臨地実習とは一味違った気づきを持ち帰ってきたことは、実社会に出た際にかけがえのない経験となりました。多職種協働の実験を経験させていただいた地域の皆様に感謝いたします。



2024年度 城西国際大学「市民未来大学」

城西国際大学「市民未来大学」は、大学が共有する知的資源をわかりやすく提供し、地域住民の方に自ら健康を培い、生きがいをもって社会参加していただくことを目的とした一般市民向け教育プログラムです。

2024年度はヘルスプランナーコース9名、健康・趣味・教養コース8名、語学コース7名の計24名が入学し、2年生と共にそれぞれのコースで学んでいます。



健康・趣味・教養コース 講座内容

講座名	講師
毛筆を楽しもう(春)・(秋)	川津益美
更なる健康を目指して	久保田好子
パラスポーツ・レクリエーションスポーツ体験	石原啓次
健康的な生活のための運動・栄養	酒井健介
皮膚の健康を守る香粧品	押坂勇志
香り・においの世界	中村智香
犬との触れ合いがもたらす健康	柚山香世子・志賀亮太
漢方薬・生薬について	堀江俊治・地野充時 田嶋公人・大原厚祐
福祉に関する講座①	佐野智子・伊藤将子 安田孝
ソーシャルビジネスを学ぼう	都丸孝之

講座名	講師
世界遺産の不思議と魅力(春)・(秋)	片岡英夫
オリーブに親しむ	光本篤史
大統領でたどるアメリカの「分断」の歴史	三島武之介
庭園の歴史と見方	多田充
街歩きに関する講座	金子祐介
温泉と健康	于 航
からだを動かそう	大杉紘徳・安齋紗保里
AEDを用いた蘇生法・日常生活で活用できる介護予防	四十竹美千代 中野元・池上萌絵
福祉に関する講座②	堀千鶴子・茆海燕 姜東星・綿貫文野

東京紀尾井町キャンパス公開講座

ビジネスパーソン向けテーマで開催

11月30日、東京紀尾井町キャンパスにて公開講座が開催され、週末の都心での開催ということもあり45名が参加しました。講師は本学大学院経営情報学研究科の山崎督教授で、SWOT分析(強み、弱み、機会、脅威の整理手法)の基礎と応用について実例を交え解説しました。講座では架空の和菓子店を題材にしたグループワークを実施し、参加者はSWOT分析に基づくクロスSWOT分析を活用して戦略を立案。「競合他社との差別化」や「健康志向の商品開発」など具体的かつ斬新なアイデアを提案しました。受講者同士の活発な意見交換を通じて知見が共有され、「職場での活用を試みたい」「刺激的で有意義だった」といった感想が寄せられました。



2024
年度

公開講座

実施一覧

2024年度は東金市、香取市、茂原市、鴨川市、御宿町にて14講座を実施しました。運動の講座や講座終了時に質問を受けるなど、地域の皆様へ学びの機会を提供することができました。講座アンケートではいずれの会場も概ね好評という結果をいただいております。

地 区	日 時	テ ー マ	講 師	受講者数
東金市	9/3(火)～9/6(金) 17:30～19:30	インターネットスタートコース	経営情報学部 斎藤紀男	36名
	10/1(火)～10/4(金) 17:30～19:30	インターネット活用コース	経営情報学部 成瀬健一郎	28名
	9/7(土) 10:00～11:30	転びにくい身体づくり ～ロコモ度を知り、ロコトレしましょう～	理学療法学科 竹内弥彦	17名
	11/30(土) 10:00～11:30	おいしく食べる。健康になる。 ー 消化管にあるワサビ受容体の役割 ー	薬学部 田嶋公人	18名
香取市	10/22(火) 13:30～15:30	つながりをつくる あらたな住まいのあり方と可能性	福祉総合学科 馬場康徳	12名
	11/19(火) 13:30～15:30	子どもの虐待は増え続けている ～現状と対策～	福祉総合学科 所貞之	10名
	12/17(火) 13:30～15:30	手を温めるだけで認知症予防に!!!	看護学部 四十竹美千代	10名
茂原市	2025/3/7(金) 14:00～16:00	渋沢栄一と茂原ゆかりの人々 ー 石井菊次郎との関わりを中心に ー	国際交流学科 飯倉章	58名
鴨川市	7/16(火) 13:20～14:50	室内でグラウンド・ゴルフを体験	経営情報学部 石原啓次	11名
	9/28(土) 10:30～12:00	中欧ヨーロッパとハンガリーの事情 ー 過去と現在 そして未来の展望 ー	国際交流学科 KIRALY Attila	15名
	2025/2/8(土) 10:30～12:00	分断の進む世界 ー グローバルサウスのゆくえ ー	国際文化学科 名本光男	12名
御宿町	10/16(水) 14:00～15:30	バーチャルリアリティ入門 ー VRのしくみと最新技術の体験 ー	メディア学部 中嶋正夫	9名
	11/27(水) 14:00～15:30	温泉の癒し効果	観光学部 于 航	8名
	12/4(水) 14:00～15:30	健康のためにできること ー シニア世代のいきいき生活の秘訣 ー	理学療法学科 安齋紗保理	13名



2024年度 主な地域連携活動

活 動 名 称	実 施 期 間
麴町警察署の春の全国交通安全運動に参加	2024年4月6日～15日
山武市外国籍児童生徒への日本語教育支援活動(日本語交流会)	2024年4月～2025年1月
芝山町観光協会主催の「しばやま」を体感するツアーで田植え体験	2024年5月11日
「ことばの日」記念日にちなんだイベント開催	2024年5月28日
山武市日本語担当者会議に講師の派遣	2024年6月～2025年1月
市民公開講座「どうしよう！股・膝の手術」	2024年6月8日
薬物乱用防止教室	2024年6月21日
B.B.BASE来・山武郡市に関わる取り組み	2024年6月29日
ちば子ども大学「マッシュルームを使った美白化粧品の効果と練り香水の作成」講座	2024年8月20日
「はじめてのボランティア！できることからはじめよう！ボランティア活動について学ぶ」講座	2024年9月20日
千代田区立麴町小学校「通学路安全運動呼びかけ隊」の委嘱	2024年9月25日
スマホ教室・健康講座	2024年9月～12月
オリーブ産地化プロジェクトで実の収穫に協力	2024年10月23日
成田山新勝寺で訪日外国人へ英語でガイド	2024年11月1日
第2回 風のアール・ブリュット×ココロ・ポリリズムJ1U	2024年11月5日～10日
障害予防に向けた体力測定会(山武市内)	2024年11月23日
山武市美杉野地区にお住まいの方々との座談会	2024年11月28日
紀尾井町公開講座「SWOT分析から見る中小企業経営戦略の特性」	2024年11月30日
東金市内の子ども支援団体へフリーマーケット収益を寄付	2024年12月23日
「スカイパークしばやま」ロゴマーク制作	2025年1月16日
東京海上日動「家族に伝えたい防災セミナー」講座	2025年1月29日
ちよだコミュニティラボライブ！2025	2025年3月2日

2024年度 連携協定一覧

協 定 先	締 結 時 期	連 携 内 容
かずさエフエム	2024年4月 1日	学術・文化の発展を促進し、共同で社会貢献を果たす。
RSテクノロジーズ	2024年4月 9日	企業のM&Aと成長に関する研究、専門人材育成に関する協力。
睦沢町	2024年5月24日	国保医療費分析の分野で連携協力。
千葉ZELVA	2024年6月21日	バレーボールを通じた東金周辺地域貢献を目的としたパートナーシップ。
福岡県	2024年7月 1日	福岡県内の企業情報等を提供、学生のUIターン就職の一層の支援及び促進を図る。
宮城県	2024年7月 1日	宮城県内の企業情報等を提供、学生のUIターン就職の一層の支援及び促進を図る。
山梨県	2024年8月 1日	山梨県内の企業情報等を提供、学生のUIターン就職の一層の支援及び促進を図る。
山形県	2024年9月13日	山形県内の企業情報等を提供、学生のUIターン就職の一層の支援及び促進を図る。
東金市・西岬観光株式会社	2024年9月19日	災害発生時における帰宅困難者支援。
株式会社阪急交通社	2024年10月4日	観光人材の育成と教育、研究に寄与する(包括連携協定)。
株式会社マツキヨココカラ&カンパニー	2024年11月1日	新たなウェルビーイングの実現。
Thilium 社(タイ王国バンコク)	2024年12月2日	断熱材などに使われるシリカエアロゲルを用いたスキンケアおよびビューティケア製品の開発。
沖縄県	2025年1月27日	沖縄県内の企業情報等を提供、学生のUIターン就職の一層の支援及び促進を図る。